

# 平成25年度 教育行政評価シート（自己評価）NO. 1

主要事業名	学校図書館の整備	作成日	H26.6.25
		担当 部 名	教育委員会
		担当 課 名	鹿嶋っ子育成課

## 1 事業の位置づけ

①鹿嶋市教育基本計画（後期）における位置づけ		
重点目標	1	豊かな心と生きる力の育成
体系項目	(2)	生きる力の形成
個別施策	③	読書活動の充実

## 2 事業概要（Plan）

戦略目標	事業を実施する目標を記入してください。	
	市内全小中学校で学校図書館を開館することを目標とし、学校図書館の充実により、児童生徒の自主的な学習活動を支援するとともに、積極的な読書活動を充実させることにより、情報収集及び活用する能力を高め、豊かな感性や表現力を身につけることにつなげる。	

重要成功要因	戦略目標を達成するための要因を記入してください。	
	・学校図書館の整備推進	
	・学校図書館と中央図書館との連携強化	

対象及び規模	事業の対象とその規模（数値）を記入してください。		
	対象	市内小中学校児童生徒及び教職員	規模

予算科目コード	会計	01	款	10	項	02	目	02	事業名	学校図書館経費（小学校・中学校）					
										24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
										(決算額：千円)	(決算額：千円)	(予算額：千円)	(計画額：千円)	(計画額：千円)	(計画額：千円)
投入コスト	全体計画														
	事業経費	報酬・共済費・旅費			18,643	18,756	18,756	18,756	18,756	18,756	18,756	18,756			
		需用費（消耗、印刷・修繕）			2,772	1,766	2,583	2,583	2,583	2,583	2,583	2,583			
		委託料			4,179	3,079	8,271	8,271	8,271	8,271	8,271	8,271			
		使用料及び賃借料・役務費			7,577	8,986	11,393	11,393	11,393	11,393	11,393	11,393			
		工事費			2,712	1,177	2,592	2,592	2,592	2,592	2,592	2,592			
		備品（管理・施設用備品）			5,396	4,426	7,901	7,901	7,901	7,901	7,901	7,901			
		備品（図書）			12,650	12,767	14,324	14,324	14,324	14,324	14,324	14,324			
	合計			53,929	50,957	65,820	65,820	65,820	65,820	65,820	65,820				
	財源内訳	国庫支出金													
地方債			53,929	50,957	65,820	65,820	65,820	65,820	65,820	65,820					
その他（参加者負担金） 一般財源			53,929	50,957	65,820	65,820	65,820	65,820	65,820	65,820					
従事職員数	正規職員			0	0	0	0	0	0	0					
	その他職員			8	8	10	11	12	12	12					

根拠法令	子どもの読書活動の推進に関する法律，学校図書館法
------	--------------------------

事業の性質	法定受託事務	自治事務（義務）	○	自治事務（任意）	市民サービス	管理経費
事業期間	単年度	○	年度繰返し	期間限定	建設事業	その他
					年度から	年度まで

国・県・他自治体の動向、又は市民、その他の意見等	事業を取り巻く環境について記入してください。	
	<p>学校図書館は、学校教育において欠くことのできない基礎的な設備であり、また学校図書館の専門的職務を掌らせるため、司書教諭を置かなければならない（学校図書館法第1条及び第5条第1項）。</p> <p>平成19年度の「新学校図書館図書整備5か年計画」が平成23年度で終了し、平成24年度から今までの「学校図書館図書整備5か年計画」の内容（毎年200億円の措置）に加え、学校図書館への新聞配置として毎年15億円、学校司書の配置として毎年150億円が地方交付税として措置されることとなった。</p>	

3 具体的施策評価

学校図書館の整備

「(アウトプット)評価」, 「施策の有効性評価」及び「工夫・改善取組評価」は, 以下の3段階評価を行う。A: 予定以上の成果, B: 予定通りの成果, C: 当初予定を下回る成果

具体的施策名	達成目標 数値目標	インプット 必要性	アウトプット 執行段階の効率性	アウトカム 有効性	執行工夫・日常業務改善の取り 組み	個別事業実績評価
①市内12校の小学校図書館の運営 【比率: 30%】	豊かな人間形成や情操教育の場であるとともに, 知的活動をサポートする場として, 学校図書館の充実を図る。 ・図書館資料のデータベース化, ネットワーク化。	公共図書館と連携した図書館運営により, 円滑な図書貸し出しの実施や定期的な蔵書の見直しが可能となる。	図書館資料のデータベース化, ネットワーク化。 [目標達成度] 予定どおり整備した。	資料の予約や蔵書のない図書のリクエスト, 公共図書館からの専門的資料の取り寄せができるようになった。	すべての学校に学校図書館司書を配置し, 公共図書館と連携して読書活動の推進を図っている。	個別事業実績評価点: 27 [課題] 図書以外の資料を収集し, 蔵書を充実させる。
②市内中学校, 新規1校の学校図書館開設 【比率: 30%】	高松中学校学校図書館の施設工事及び整備。	学校図書館は, 学校教育において欠くことのできない基礎的な施設であり, 生徒の健全な教養を育成するために必要である。	高松中学校学校図書館の開設。 [目標達成度] 予定どおり9月に開設した。	小学校で身につけた読書習慣や読書力を継続させ, 情報収集や自立的学習をサポートする場を提供できた。	より利用される図書館をめざして, 図書館司書及び図書委員会を中心にさまざまな企画・取組を行った。	個別事業実績評価点: 27 [課題] 既存設備の有効活用。
③学校図書館年間利用計画に基づいた資料の活用, 収集 【比率: 20%】	学校図書館及び公共図書館の資料の共有化により, 読書活動の推進, 教科における活用, 総合的な学習や調べ, 学習への取組を支援する。	資料や情報の共有により, 児童生徒の学習内容により適した多くの資料を補助教材として提供することができる。	学校図書館年間利用計画に基づいた資料の活用及び収集。 [目標達成度] 多くの学校で計画どおり活用できた。	学校図書館及び中央図書館の資料を共有化することにより, 児童生徒の学習をサポートすることができた(活用校)。	年間利用計画の活用における役割分担を明確にした。	個別事業実績評価点: 14 [課題] 活用されなかった学校については, 教職員への周知を徹底して活用されるよう計画する。
④司書教諭, 学校図書館司書, 公共図書館司書による研修会開催 【比率: 20%】	役割を明確にし, 各々が担当業務を遂行するとともに, より専門的な知識を習得することによりサービスの向上を図る。 ・研究会の開催。	学校図書館の更なる充実に向け, 実務者レベルで共通認識を持つために必要である。	司書教諭, 学校図書館司書, 公共図書館司書による研究会。 [目標達成度] 三者間での実施には至らなかったが, それぞれ二者間での研修会は実施できた。	三者がそれぞれ役割を確認し, 共通認識を持つことにより, 児童生徒にとってよりよい学校図書館のあり方や読書環境の改善を図ることができた。	司書教諭-学校図書館司書, 学校図書館司書-公共図書館司書間では研修会を実施し, 情報の共有化を図ってきた。	個別事業実績評価点: 14 [課題] 次年度には, 三者間での研修会の実施ができるよう努める。
【比率: %】			[目標達成度] 評価:	施策の有効性評価:	工夫・改善取組評価:	個別事業実績評価点: [課題]

4 自己評価結果 (Action)

総合評価方法	具体的施策別の比率に, アウトプット(3割)・アウトカム(4割)・執行工夫・日常業務改善の取り組み(3割)の割合及びそれぞれの判定による率(A=1.0, B=0.7, C=0.5)を乗じ, 個別事業実績評価点を算出する。その合計点数をA~Cの区分により総合評価とする。	合計点数	82.6	A: 合計点数が80点以上 B: 合計点数が65点以上80点未満 C: 合計点数が65点未満	総合評価結果	A
本評価に基づく事業の改善点	実績	社会情勢や財政, 他市での取り組みなどを考慮し, 事業の取り巻く環境と事業の現状について記入してください。 小学校の一人あたりの貸出冊数は, わずかではあるが昨年より増加した(42.6冊→42.9冊)。高松中学校学校図書館の開館を皮切りに平成26年度から順次, 中学校の学校図書館の整備を進めていく。開館した学校図書館については, ハード面の整備も完了し, システムの充実により公共図書館との連携もスムーズに行うことができています。				
	継続・休止の理由	継続	理由	豊かな人間形成や情操教育の場であるとともに, 知的活動をサポートする場として, 市内全小中学校での学校図書館開設が必要である。		
	課題	継続する場合, 現状認識を踏まえた課題について記入してください。 施策で予定していた司書教諭, 図書館司書, 公共図書館司書の三者での研究会が開催できなかったため, 次年度は実施し, 学校図書館の充実・人材を含めた環境整備に努めていく。				
	改善策	課題に対する改善策について, 期限や具体的な数値などを記入してください。 年3回実施している学校図書館司書の会議において, 第3回(平成26年12月実施予定)に司書教諭及び公共図書館司書を招くことで三者合同の研修会を開催する。また, 平成26年度の学校図書館新規2校開館に向け, 図書館司書を2名増員する。				

# 平成25年度 教育行政評価シート（自己評価）NO. 2

主要事業名	フロンティア・アドベンチャー事業	作成日	H26.6.27
		担当	市民協働部
		課名	生涯学習課

## 1 事業の位置づけ

①鹿嶋市教育基本計画（後期）における位置づけ		
重点目標	1	豊かな心と生きる力の育成
体系項目	(2)	生きる力の形成
個別施策	④	体験活動の充実

## 2 事業概要（Plan）

戦略目標	事業を実施する目標を記入してください。 <hr/> フロンティア・アドベンチャー事業は、自然の中で、10泊11日という長期集団宿泊体験の機会を提供し、さまざまな体験活動を通して、人間関係やホームシック等、多くの困難を乗り越え、生きる力（協調性・自立性・課題発見能力・問題解決能力）を身に付けることを目的に実施する。
------	--

重要成功要因	戦略目標を達成するための要因を記入してください。 ・サブリーダー（高校生）・リーダー（一般指導者）・看護師の確保 ・現地視察・充実した体験プログラムの構築 ・サブリーダー・リーダー・看護師合同研修会の実施（1回） ・サブリーダー研修会実施（2回）
--------	---

対象及び規模	事業の対象とその規模（数値）を記入してください。 対象                      市内小学生（5・6年）                      規模                      70人		
--------	--	--	--

予算科目コード		会計	01	款	10	項	05	目	03	事業名				青少年育成対策経費			
投入コスト		全体計画								24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度		
事業経費		事業委託（実行委員会へ）								(決算額：千円)	(決算額：千円)	(予算額：千円)	(計画額：千円)	(計画額：千円)	(計画額：千円)		
事業経費										2,230	2,230	2,230	2,528	2,575	2,575		
	合計									2,230	2,230	2,230	2,528	2,575	2,575		
財源内訳		国県支出金															
		地方債															
		その他(参加者負担金) 一般財源								2,230	2,230	2,230	2,528	2,575	2,575		
従事職員数		正規職員								4	4	4	4	4	4		
		その他職員								3	3	3	3	3	3		

根拠法令	
------	--

事業の性質		法定受託事務		自治事務（義務）		自治事務（任意）		○ 市民サービス	管理経費
事業期間		単年度	○	年度繰返し		期間限定		建設事業	その他
								年度から	年度まで

国・県・他自治体の動向、又は市民、その他の意見等	事業を取り巻く環境について記入してください。 <hr/> 今日、子どもたちは、直接体験が不足している現状であり、子どもたちに生活体験や自然体験などの体験活動の一層の充実が極めて重要な課題となっている。
--------------------------	---

3 具体的施策評価

フロンティア・アドベンチャー事業

「(アウトプット)評価」、「施策の有効性評価」及び「工夫・改善取組評価」は、以下の3段階評価を行う。A:予定以上の成果, B:予定通りの成果, C:当初予定を下回る成果

具体的施策名	達成目標	インプット	アウトプット	アウトカム	執行工夫・日常業務改善の取り組み	個別事業実績評価
	数値目標	必要性	執行段階の効率性	有効性		
①フロンティア・アドベンチャー事業の実施	安全な体験学習プログラムによる参加児童の生きる力、忍耐力等の育成。 実施日数 10泊11日 参加人数 70人(5・6年生) ・事業実施後の保護者アンケートにおける事業全体に対する満足度が80%以上。	子どもたちに「生きる力」を育むためには、自然や社会の現実に触れ、実際の体験が必要である。	実施日数 10泊11日 参加人数 70人(5・6年生) ○事業実施後に保護者アンケート実施(回収率76.1%) ・お子さんの生活などに何らかの変化があつたかについては、83%があつたと回答。 ・事業全体に対する満足度においては100%が満足と回答。 ・事業継続については100%が継続と回答。  [目標達成度] 安全な学習プログラムにより、参加児童に生きる力や忍耐力の育成が図られた。	原生活体験を経験し、現実の世界や生活などへの興味・関心、意欲の向上が図られ、社会性や共に生きる力が育成された。	事業を安全に行うため、現地視察を行い、前回までの反省点を改善し、事前研修や安全な体験学習プログラムの作成に努めた。	個別事業実績評価点: 100 [課題] 23年目を迎え、参加した子どもたちが成長し、ボランティアのサブリーダーまたは成人リーダーとしてこの事業に戻ってきている。社会人として生きるうえで、この事業が与えた影響についての検証が必要となっている。
【比率: 100%】			評価: A	施策の有効性評価: A	工夫・改善取組評価: A	
【比率: %】			[目標達成度] 評価:	施策の有効性評価:	工夫・改善取組評価:	個別事業実績評価点: [課題]
【比率: %】			[目標達成度] 評価:	施策の有効性評価:	工夫・改善取組評価:	個別事業実績評価点: [課題]
【比率: %】			[目標達成度] 評価:	施策の有効性評価:	工夫・改善取組評価:	個別事業実績評価点: [課題]

4 自己評価結果(Action)

総合評価方法	具体的施策別の比率に、アウトプット(3割)・アウトカム(4割)・執行工夫・日常業務改善の取り組み(3割)の割合及びそれぞれの判定による率(A=1.0,B=0.7,C=0.5)を乗じ、個別事業実績評価点を算出する。その合計点数をA~Cの区分により総合評価とする。			合計点数	100.0	A:合計点数が80点以上 B:合計点数が65点以上80点未満 C:合計点数が65点未満	総合評価結果	A
本評価に基づく事業の改善点	実績	社会情勢や財政、他市での取り組みなどを考慮し、事業の取り巻く環境と事業の現状について記入してください。 今日、子どもたちは、直接体験が不足している現状であり、子どもたちに生活体験や自然体験などの体験活動の一層の充実が極めて重要な課題となっている。23回を継続して行っているフロンティア・アドベンチャーは、こうした課題解決のためにも有効な事業と考える。						
	継続・休止の理由	継続	理由	豊かな人間性や、自ら学び、自ら考える、生きる基盤作りが必要である。				
	課題	継続する場合、現状認識を踏まえた課題について記入してください。 隊員として参加した子どもたちが、サブリーダーや成人指導者としてこの事業に戻ってきている。この事業が社会人として成長するうえで、どのような影響を与えたかその効果について検証したい。						
	改善策	課題に対する改善策について、期限や具体的な数値などを記入してください。 アドベンチャー同窓会の開催や、アンケートの実施により検証する。						